

「AIによる広葉樹資源解析研修」の概要（R7）

■ 研修の目的

岐阜県内の森林・林業現場において、AI技術・ドローン・画像解析による広葉樹資源の把握・利活用を促進することを目的に研修会を開催しました。

広葉樹の資源量把握は、これまで熟練者の経験に依存する場面が多く、デジタル技術の導入により効率化・高度化・省力化が期待されています。

■ 研修の概要

開催日：令和7年11月11日（火）13:30～15:30

会場：岐阜県森林研究所 講堂（美濃市曾代）

講師：Deep Forest Technologies 事業統括部 営業責任者 池端 隆彦 氏

● 研修内容

- 会社概要およびAI解析ソフトの紹介（ドローン画像から広葉樹の樹種を自動認識する技術など）
- 飛行・解析データの検証結果報告（高山市丹生川折敷地内 市有林で取得したデータを解析）
- 質疑応答

● 解析結果（高山市内 市有林：5.1ha）

- 認識本数：2,252本
- 主要樹種の内訳（本数比率）：ミズナラ 687本、シラカバ 451本、バッコヤナギ 231本（計74%）
- 材積推定：ミズナラ 452m³、シラカバ 272m³、クリ 75m³（計69%）

■ 研修成果

- 参加者アンケートでは、内容・難易度・時間配分に概ね満足との回答がありました。
- 県内林分データを基にAI解析の実例を共有し、新技術への理解が向上しました。
- 森林調査の省力化・高精度化に向けた技術活用の可能性が広がりました。

■ 今後の課題

- 広葉樹判定精度の数値化・評価方法の確立
- ユーザー用途に応じたデータ取得・解析手法の最適化（例：大径木に絞った調査など）

■ 今後の対応

- フォローアップ研修の検討

■ 研修のようす



研修会場のようす

解析結果



解析結果